

総務産業委員会報告書

平成27年9月29日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 田 原 隆 雄

平成27年9月29日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第120号 財産の取得について	原案可決	なし
議案第101号 平成27年度備前市下水道事業会計補正予算（第1号）	原案可決	なし
議案第107号 平成26年度備前市浄化槽整備事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定	なし
議案第110号 平成26年度備前市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定	なし
議案第111号 平成26年度備前市飲料水供給事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定	なし
議案第112号 平成26年度備前市宅地造成分譲事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定	なし
議案第113号 平成26年度備前市駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定	なし
議案第115号 平成26年度備前市企業用地造成事業特別会計歳入歳出決算の認定について	認 定	なし
議案第116号 平成26年度備前市水道事業会計決算の認定について	認 定	なし
議案第117号 平成26年度備前市下水道事業会計決算の認定について	認 定	なし

○ 閉会中の継続調査事件の付託について

<報告事項>

- 地方創生について（人口減対策監）
- 日生の諸島のトイレの建設について（まち整備課）
- 備前市子育て世帯支援プレミアム付商品券の販売状況について（まち営業課）
- 公共交通（バスの車庫と事務所）について（まち創生課）

<所管事務調査>

- 上下水道事業について

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第120号の審査	2
議案第101号の審査	9
議案第107号の審査	10
議案第110号の審査	10
議案第111号の審査	10
議案第112号の審査	11
議案第113号の審査	11
議案第115号の審査	16
議案第116号の審査	17
議案第117号の審査	20
報告事項	23
所管事務調査	31
閉会中の継続調査事件の付託	32
閉会	32

総務産業委員会記録

招集日時	平成27年9月29日（火）	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時30分	開会 ～	午後3時14分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中(第5回定例会)の開催		
出席委員	委員長	田原隆雄	副委員長	川崎輝通
	委員	山本恒道		尾川直行
		掛谷 繁		西上徳一
		山本 成		
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	田口健作		
	委員外議員	なし		
	紹介議員	なし		
	参考人	なし		
説明員	まちづくり部長	高橋昌弘	人口減対策監	中島和久
	まち産業課長	丸尾勇司	まち営業課長	梶藤 勲
	まち創生課長	坂本基道	まち整備課長	平田惣己治
	上下水道課長	藤森 亨		
	日生総合支所長	星尾靖行	吉永総合支所 管理課参事	高井利広
傍聴者	議員	守井秀龍	立川 茂	石原和人
		森本洋子	星野和也	
	報道関係	山陽新聞		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午前9時30分 開会

○田原委員長 皆さんおはようございます。

ただいまの出席は7名全員です。定足数に達しておりますので、これより総務産業委員会を開会いたします。

審査の順序については、レジュメにありますように付託されております議案を審査した後、一旦本委員会を休憩して予算決算審査委員会総務産業分科会を開催し、分科会終了後、本委員会を再開して報告事項、所管事務調査を行っていく予定としております。それでよろしいですね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、早速議案審査に入ります。

***** 議案第120号の審査 *****

まず、議案第120号財産の取得についてを議題といたします。

○掛谷委員 今回企業団地として造成するために取得すると、約1億4,600万円ほどですが、ここを購入する目的、ある企業の独身寮にもしたいということをお伺いしていますが、もっと具体的に利活用についてお聞かせください。

それから、これは前に皆さんに言ったと思いますが、かなり低いです、土地が。低いところにあるわけです。ですから、恐らくミサワぐらいになるとかなり造成をかさ上げしなければならないと思います。これは土地だけの取得と理解していますが、造成するのに何メートルぐらいかさ上げして、どの程度費用がかかるのか、造成に関して。それが気になるところです。

3つ目、低いということがありますが、執行部の人は知っていますが、天井川があそこを通っています。ここに弓場川という、地図を見ていただいたらわかりだと思います。この地図の取得用地というところの右側に弓場川とあります。これ天井川になっています。ですから、災害が起きやすい。集中豪雨になるとやばい。例えば、弓場川のここがせきとめられたら一気にそこから流れなくなってよくない状況になるのではなかろうかという不安もあります。決して私は反対するという意味ではなく、そういうところをどのようにお考えになってこれを取得するのかということについてお聞かせをいただきたい。

その3点、災害対策は大丈夫かというところも含めてお願いします。

○梶藤まち営業課長 1点目の、購入する目的についてですが、委員おっしゃられたように企業を誘致する目的で企業用地として造成したいと考えています。

2点目の、造成費用については、企業と交渉しながら造成の形というのを決めさせていただきたいと考えていますので、現在具体的に金額はまだ概算でしかはじいていません。概算で1億円少々になると考えています。土地の造成について、低いのではないかというお話がありましたが、こちらの高さがミサワホームの高さとそれほどかわりがないです。8月にかなり雨が降ったと思いますが、その際もJR側の道路は冠水していましたが、こちらの土地については冠水していません。なので、土を埋めるにしても50センチまでの高さぐらいでミサワぐらいの高さになると想定しています。

災害への不安はという質問ですが、確かに隣に天井川が流れているということで、その川自体に何かがあったらということでの不安というようなものもあるとは思いますが。私が市役所に入ってから何回か災害がありましたが、裏のり自体の崩れとか、弓場川についてはあったと思いますが、あれを超えてというのは今まではなかったです。絶対というのは今の災害ではないわけですが、今までの状況から大丈夫であろうという想定で造成をさせてもらっています。

○掛谷委員 ちょっと理由が、企業団地を造成する、これは書いておいてありますが、たしか、まだ企業との契約が結ばれていないと、その辺も気になるわけですが。秋口にはわかるというようなことを聞いていまして、10月になったら秋なのかよくわかりませんが、その相手の交渉というのがどうなっているのかということと、相手の企業がもうほぼ、ある特定の名前は言われなくても確定をしているのかどうかということをお聞きしたい。

もう一方、突っ込んで言えば、独身寮も2カ所つくる中の一つということをおっしゃったことがあると思いますが、この用地が。その辺のことをお伺いします。

○梶藤まち営業課長 交渉の状況ですが、確定している事業者はまだいません。事業者について交渉を続けているというのが1点目です。

2点目の、独身寮のお話ですが、独身寮はこちらの香登本の造成地には今はつくる予定ではございません。

○掛谷委員 これにはない。

○梶藤まち営業課長 はい。

○掛谷委員 一番大事なのは、どこの企業が来られるのかというのが、なかなか交渉中でわからないと、どういう理由でなかなか進まないのか、一体いつごろになればめどがつくのか、それはもちろん相手次第ですが、秋口にはというような話は聞いています。その辺を含めて今後どうなっていくのか不安なところもあるわけですが。交渉中というのはよくわかります。その辺のめどはどうかをお聞かせいただきたい。

○梶藤まち営業課長 交渉が決まるめどはという御質問ですが、委員もおっしゃられましたが、企業相手ということで確実にいつということが、ある程度調印の日が決まるとかというようなことでもないとなかなかお話しできませんので、まだめどについてはこちら側もお伝えできないというのが実情です。

○掛谷委員 私もあそこは本当よく通るわけですが、柴部アパートのところは高く、だんだんだんだんミサワのほうに来ると低いです、坂になっていますから。造成するときには、高さは一緒にするのでしょうか、多分。それを含めて造成をされるということになると、多分あそこの道路が冠水します。造成した後のことを考えて、その辺の想定はされていますか。

○梶藤まち営業課長 道路が冠水するか想定しているのかというお話ですが、先日8月大雨の際に冠水した事実も現地で確認していますし、そういうこと自体が交渉の席でもお話ししとかないと、後でそういう道だったとかというような話もありますので、それは現場写真もちゃんと撮っていますし、そういうことは隠さずに交渉の席には臨んでいきたいと思っておりますし、私どもは今言

ったとおりに把握はしています。

○掛谷委員 ぜひ、悪いことではないので。ただ、今言うように条件的にはちょっと悪いところもあるので、しっかりときちっとしたことを正確に伝えながらも企業誘致を早く決めていただきたいと思っています。

○尾川委員 独身寮を建設するような話が地元の人に生々しく伝わっているのか、うわさ話が本当なのかわかりませんが。その独身寮の建設というのはどこへ考えているわけですか。はっきりそこにはしないということはどこかへするということを想定しているのかと。私が言いたいのは、こういう企業誘致で土地を提供するのであれば備前市内へ住んでもらうということは原則にしてもらわないいけないと思うわけです。だから、ある企業が、はっきりまだめどが伝えられないということだけど、そのあたりを考えられたわけですか、どうなんですか。

○梶藤まち営業課長 今の御質問ですが、独身寮の建設はどこにするかという問いと、企業誘致に伴う従業員の居住についての考えということでお答えさせていただきます。

独身寮については、まだ最終的な決裁が相手側でおりていないので、正式には言いにくいわけですが、香登西畠田の方面で今進めています。

○尾川委員 畠田ならいいですが、よくそのあたり地元の人を採用をいろいろ工場誘致にいろいろな誘致や条件があったと思うので、その辺は明確にしてもらって、それで出ていっても困るわけですが、やはり住んでいただかないと、片方では住宅地をつくろうと言われるけど、片方では出ていくようでは何しているのかわからないことになるので、そのあたりをきちっとしてもらいたい。

それから、今地元の人が水害という問題の話をされたわけですが、要するに今集中豪雨というか、特定の場所でかなり雨が降るといような気候ですけど、工業誘致するときに降雨量とかそういう想定というのはどの程度考えていますか。

○高橋まちづくり部長 一つの一定規模の開発をするときは、雨量の想定の方というのがあります。この地域でいいますと、香登川の排水能力が一つの基準等になろうかと思えます。それには5分の1年確率とか10年に1回起こり得る確率強度を使うとか、そういう定めがあります。それに基づいて進めているということです。基準とはいいますが、県の開発条例の基準に基づいた高強度で行っているということです。ただし、最近の雨の降りようというのは局所的に時間雨量が80ミリとかというのが平気で起こります。あくまで、この開発基準はそこまでの雨量強度の想定はしていません。通常、その河川の流し得る能力を加味しながらそういう基準に合致したもので考えていくということです。

○尾川委員 具体的には50ぐらいで考えているわけですか。

○高橋まちづくり部長 この香登川については、基本的には10分の1程度だったと思います。そういう形の中で、それを流し得るとい能力のもとに調整池、ある程度調整機能を有する池を設けながら、下流に影響がない開発区域の中で負担して責任を持つという高強度、おおむね10分の1程度であったと記憶しています。

○尾川委員 その負担というか、危険負担というか、瑕疵を認めて市のほうの負担になっても大変なので、そのあたりはしっかり、開発基準が甘いならきつくするとかというふうにしていただきたいと思います。

それから、1月20日の委員会の中で、まち営業課長の答弁で、話題になったこの企業が本社機能まで備前市に持っていきたいというところまで言うてくれているわけだというふうな、その企業と解釈すればいいわけですか、どうですか。それとは違うわけですか。

○高橋まちづくり部長 その本社機能を移したいというお話があったのも事実ですし、その方々との交渉は今も続いています。有力な会社の企業の一つということです。ただし、私どもはそこありきでなく、企業というのはやはり経営条件によって考え方も変わっていきます。そういう中で、そこ以外の部分でも二、三まだ引き合い等がございます。その中もあわせて交渉は進めているといった状況です。

当初、私どもがお話しした分については、有力な会社の一つではあります。

○尾川委員 そしたら、寮の話が出たりしてからうわさ話かもしれませんが、まだまだ流動的で何社かあって、これという雰囲気じゃないわけですか。

○高橋まちづくり部長 時期的に、寮の建設等もちまたのうわさではいろいろ出ています。それで、寮については、ぜひとも市内で寮を建てかえるときは市内にしていきたいと私ども言っているのも事実ですし、先ほど課長が言いましたようにある程度具体的にこの周辺あたりで独身寮を建てるということで、会社での最終的な判断がまだ最終的な決まりではないですが、ほぼ市内でしていただけるというところまでの状況です。寮についてはそういう形で、先ほども言いましたようによそに逃げられないような形で我々も慰留も含めて努力をしています。

それから、造成については、本議案に出ている西側の部分で3ヘクタールの造成地があります。ここについても、同時期に有力な会社の一つと今も交渉をしています。その企業との交渉については、その面積3ヘクタールのうちどれぐらいを企業立地として必要なのか、その辺の具体的な話とあわせて詰めているところです。そうした中で、我々も二股とか三股かけるつもりはないですが、やはりある程度企業はそういう状況によって変わるというリスクも含めながら、それしかないというような形ではなく、ある程度柔軟な部分での対応もあわせてやっているという状況です。

そうした中で、我々も塩漬けにならないようにという気持ちは十分ありますし、この造成を認めていただいた背景には必ず企業誘致、塩漬けにされることのないように販売についてはもう確実に販売するというような考えのもとにやっていますので、その辺については決して放置されたままというようなことのないような形で努力してまいりたいと思います。造成地がある程度めどが立ったら皆さんの前に報告が一日も早くできるような形で頑張ったいと思います。

○川崎副委員長 ちょっと気になることは、西隣の3ヘクタール、あのときにも2回か3回追加企業が欲しいと言っていると、本社機能を移す事務所用の土地が欲しいとか、それから三角地帯は駐車場か何か欲しいという、2回ほど追加が出て、ここでいったら3回目か4回目みたいな。

それはわかりますが、やり方として塩漬けにならないという、私も質問で5年も10年も塩漬けになることないでしょうねと確認したかったわけですけど。本当に来たいならまず工業用地だけでも取得していただいて、それプラス本社機能の土地が足りないのを追加でお願いできませんかとか、ここも独身寮か何か知りませんがそういうものが欲しいという、それは、段階的に契約できないものですか。全部そろってそちらの言うとおりに全部備前市が動いて、やっと契約しようとして、そのときになったら情勢が違ったり景気もよくないからもうキャンセルだといえば、今塩漬けにならないと言ったけど、結局3年か5年も10年ももしかしたら塩漬けになる可能性があるのではないかと。だから、やはりある段階で、せめてまず工場なら工場、やはり来てもらうのが一番、特に製造業は従業員の雇用で大きな位置を占めますから。そういうやり方か何かしないと。どうも、何か自由に田舎の市役所を相手に適当にやってみせて買わせてくれども。

もう一つ気になっているのは坪単価です。これも、今ざっと計算しても4万7,000円前後でしょ、坪で。それが造成したら一体幾らの売買単価になるのか。日生なんか、県のあれなんか3万円前後だったでしょ、たしか。だから、それから比べれば、日生はもうないからしょうがないけど。やはり、そこらと比較してももっと安い、瀬戸内へ行けばもっと安くて広い日当たりのいい土地が入ることになれば備前から逃げていかれるんじゃないかという危機感のほうが強いです。国道2号に近いという点ではメリットかも知れませんが、これだけ渋滞する国道2号では企業もメリットを感じないのではないかと、いろいろ思います。その辺は、2社、3社という話は聞きますが、せめて1社だけでも契約しましたということ、めどは年度内か来年度内ぐらいにはできそうですか、どうでしょうか。

○高橋まちづくり部長 今、西の3ヘクタールについては、開発の申請を出す手前までいっています。ということは、ある程度事前の協議を県と何回も繰り返しています。そうした中で、ほぼ近い事業費はもう想定できています。そうした中で、今後は具体的な坪単価の交渉等も、それが可能になっていますのでできると思います。ただ、一番大きな問題が、盛り土が必要になるわけですが、その盛り土を購入するか、あるいは公共残土等無償でできるものを使っていくか、これによって非常に単価が大きく変わってくるわけです。そうした中で、できれば安いものを利用したいという気持ちがありますが、ただそういう安いものを利用しようとするれば時期等が確約できませんので、ある程度の時期になれば購入をしてでも盛り土をしなければいけないというような形の部分が流動的な部分として残りますが、基本的には購入した場合の造成費という形で具体的な話もして進めているのも事実です。そうした状況からいいますと、造成工事も始まり、28年度中には契約の締結というような形に結びつけたいというつもりで考えています。

○掛谷委員 これは、オーダーメイド方式という方式でやるということでしたよね。ということは、企業がこういうふうにしたいと、これだけの広さで、企業側のいろんな目的なりやり方を市役所が取り入れてできる範囲で、できないことはできませんが、やっていくという方式だったと思います。相手方は、いつまでに誘致をしたいというようなことは、今はもう手前まで来ている、西のほうは、ありますけれども、そういうのは向こうの企業側からは、やはりあるんじゃない

いですか、いつまでにはやりたいと、やらないならばやらないということが。市役所よりもむしろ向こう側の意見をよく聞くということがオーダーメイド方式だと私は認識しています。そういう意味で、向こうからもいろんな提案なりいろんなものが出ているはずですよ。今の残土、盛り土の問題、それは安く購入できれば一番いいわけですが、その企業側は、じゃあいつまでも待ってあげようということにはならないと思うわけですけど、その辺がもう一つしっくりこない。一体、どのようなお互いの話し合いになっているのか、西側も今のところも含めて、その企業誘致をされる側のは、いつまでやらないといけないのかとかという、そういうものはないですか、むこう側からの要求というのは、逆に言えば。

○高橋まちづくり部長 あります、それは。いつまでもいいということはないです。ただ、企業もいろんな状況の場合が想定されると思うわけです。今、話をしているのは、もう既に他市で企業が創業されています。いろんな事情等があって全部ある程度移転したいという希望の中である程度自分たちの許せる設定期間がございます。先ほど私が言いましたように、ある程度の時期が来たら購入してでも全部を仕上げなければならないといけない時期というのは、ある程度想定したものがあります。そうした中で、それまでに無償のものが入れば入るだけ造成費が安くなりますから、その辺もある程度ぎりぎりの時間的な余裕を見ながら決めていきたいということで、企業としてもいつでもいいよという話はそんなことはできませんし、その辺はある程度今の話の中で具体的な話も詰めてしているという状況です。

今の状況をぱっと皆さんにお知らせすれば、ああそうかということになるかも知れませんが、なかなか言いにくい部分もありますし、言えない部分もあります。そういうことで御理解を賜りたいと思います。

○掛谷委員 言えないところもあるとは思いますが、もどかしいと各議員が思っているんじゃないかということできっちりやっていただきたい。答弁は結構です。

○山本（恒）委員 もう大抵、企業は来ないようになると思います。市場がもうでええ冷えてきてしまいうる、早うせなんだから、こりゃ1年ぐらいかかる、どうせうちが買うとんじゃからな、どんどん土は捨てさせたらええわけじゃ、ただの土を。どうせ3万円ほどで買って、8万円ほどで売るんじゃろうけどな。言ようるように擁壁もせにやいけんのじゃろうけど、余り擁壁しようたら流域面積に対してそないなものを置いたら、そら1%ほど遊水地をつくるんかわからんけど。早うしゃんしゃんせなんだからいけまあ。早うにせなんだからいけん、ほんまにするんなら絶対これはつつじが丘でもあれもう20年なんか過ぎとんじゃねん、全部売れたん。そやから、早うせないけん、とにかく早う。じっくりじっくりしようたらもうそりゃ、7億円かけるんか8億円かけるんか知らんけども、塩漬けになってしまうわ。ぜひしゃんしゃんせなんだから。二股か三股か知らんけど、ええ企業に来てもらええけど、ええ企業はもうびよっぴよとすぐ行くがな。そこらどんなんかな、もうちょっとしゃんしゃんできんのかな。

○梶藤まち営業課長 委員おっしゃるように、しっかり交渉して早く決めていきたいと思いません。

○高橋まちづくり部長 スピード感を持って対応をしたいと思います。

○田原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようだったら一言お伺いします。

〔委員長交代〕

○川崎副委員長 田原委員。

○田原委員長 用地ですが、宅地と田があったと思います。利用はやはり工場誘致ということで、買った後の利用は当然同じ目的で家ですが、買収単価はそれぞれ違うと思うので、念のために教えてください。

○梶藤まち営業課長 宅地が1万8,000円で、田が1万1,000円です。

○田原委員長 わかりました。

それと、皆さんからどんどん意見が出ていますが、やはり企業名は言えません、調印後にしますと景気のいい話を聞かせてくれていますので、私たちも市民からの問い合わせに、こういう御時世ですからもうちょっと待って、新しい企業があそこへ誘致されるからという話をするわけです。そういう中で、さっき秋口というのはいつが秋口かという話もありましたが、やはり二股、三股かけては企業との話というのはやはり心配ですから、交渉というのは、やはり担当者の交渉、またトップセールスもありましょうし、この辺はどういう交渉をされているわけですか、狙い定めて、ぜひあんたうちへ来てほしいという熱意が相手に伝わるのか、いやこういうところはまだほかにもあるんだということなら自然に足元を見られると思いますが。そういう中で、こうしてどんどん土地を買い取っていく、塩漬けになるという心配もあるわけです。その辺の交渉テクニックとか、何遍も言うように必要なら議員もそこへ陳情に行こうじゃないですかという話も何度かしたと思います。我々の出番もひょっとしたらあるということで謎かけするわけですが、いやあなたたちには教えられませんということで終わっていますが、その交渉の方法とか、どういう交渉をされているえわけですか。

○高橋まちづくり部長 やはり、これは信頼関係が第一だと思っています。三股、3つも4つもかけてするというのはではなく、やはりそれなりの信頼関係に基づいて、柔軟にその辺は信頼を裏切らないような形で、なおかつ後の交渉の部分を残しながらというような形で、その辺はうまくと言ったら言葉が非常に悪いですが、基本は信頼を裏切らないと、信頼されていくというのを基本に置いています。

それから、いざと、ここはということになりましたら議員の力も当然おかりしなくてはならないと思いますし、そういう時期がありましたらぜひとも協力はお願いするつもりでいます。

○田原委員長 そういう中で、先方の要望、期限を切られている、やはりオーダーメードならそれなりに合わせないといけない。とにかくここは市が負担してでもやらないといけないのではないかというような判断もあるので、やはり公表できるものは公表していただいて、市と議会が一緒になって企業誘致というのは進めていかないといけないと思うので、そのあたりやはりよく検

討してください。前の担当課長は大変景気のいい話して、今にも誘致できるのかなというふうに思っていました。ところが、やはりこういう状況でもどかしい思いをしています。恐らく市民に対して皆さんもそれぞれ報告していると思いますが、信頼なくなった、私たちも。議員は何しとだということに対しての。この辺も考慮していただきたいと思いますので、よろしく願いします。要望です。

〔委員長交代〕

○田原委員長 それでは、財産の取得についての、当議案についての質疑は打ち切ってよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより議案第120号を採決いたします。

本案は原案のとおり可決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第120号は原案のとおり可決されました。

以上で、議案第120号の審査を終了します。

***** 議案第101号の審査 *****

次に、議案第101号平成27年度備前市下水道事業会計補正予算（第1号）を議題といたします。

質疑のある方はどなたからでもどうぞ。

○掛谷委員 11ページ、公共下水道の建設改良費で工事請負費が汚水の環境整備と処理整備ですか、これがポンプの整備含めて全部増額になっています。この理由について教えてください。

○藤森上下水道課長 予算の増額についてですが、今までは収益的支出で見ていた修繕費を建設改良費へ回したことによるもので、全体的なプラス・マイナスは現金によりふえるということはありません。ただ、修繕費を建設改良費に流用しましたということです。

○掛谷委員 費目を変えたと。

○藤森上下水道課長 はい。

○田原委員長 ほかの方、ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、質疑を打ち切ってよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより議案第101号の採決をいたします。

本案は原案のとおり可決することに異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第101号は原案のとおり可決されました。

以上で、議案第101号の審査を終了します。

***** 議案第107号の審査 *****

次、議案第107号平成26年度備前市浄化槽整備事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

決算書をお開きください。決算書301ページです。

歳入歳出、同時でいかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

別段ないようですので、質疑を終結してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結いたします。

これより議案第107号の採決をいたします。

本案は認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第107号は認定されました。

以上で、議案第107号の審査を終了します。

***** 議案第110号の審査 *****

次、議案第110号平成26年度備前市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑を終結してよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより採決をいたします。

本案は認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第110号は認定されました。

以上で、議案第110号の審査を終了します。

***** 議案第111号の審査 *****

次、議案第111号平成26年度備前市飲料水供給事業特別会計歳入歳出決算の認定についてに入ります。

401ページをお開きください。

ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑を終結してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を打ち切ります。

これより議案第111号を採決いたします。

本案は認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第111号は認定されました。

以上で、議案第111号の審査を終了します。

***** 議案第112号の審査 *****

次、議案第112号平成26年度備前市宅地造成分譲事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

421ページです。

いかがでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑を終結してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を打ち切ります。

これより議案第112号を採決します。

本案は認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第112号は認定されました。

以上で、議案第112号の審査を終了します。

***** 議案第113号の審査 *****

次、議案第113号平成26年度備前市駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

437ページです。

○川崎副委員長 毎年繰り返しょんですけど、繰越金残高が、総収入合計の半分以上を占めているということで、運用しないまま定期預金でもされているのでしょうか。やはり、需要、供給からいえば日生地域はまだまだあれだし、香登の辺は無料で置く駐車場でしたか有料かちょっと忘れましたが、人口定着の上からはそういう条件的に無料でいったほうがより公共性が高いところというのは、それはそれでいいのではないかと思いますけど、明らかに個人の定期駐車場ですよね。それと、もう一つは、流動人口、観光客が気楽に駐車するという点で言えば、前から一貫して機械式、シャッター式を日生地域などは、また伊部地域周辺なんか含めてやるべきではないかということでも、お金がないとか高くつくとかなんとか言っているけど、この決算で4,600万円もが前年度で入ってきて、済みません、ちょっとわし歳入のほうで見よったんで、繰り越さないのかな全部使うたんかな、これ。何ぼ出とるかな、ほとんど使うたんかな。

〔「2, 460万円」と呼ぶ者あり〕

私は、今は預金しても何の価値もないような低金利の時代ですから、やはり明らかに投資効果が出てくるところについてはコイン方式ですか、機械式で、初めてじゃないですかね。水ヶ鼻に大型が800円、小型がたしか400円で、1日なり24時間なのか、ちょっと時間まで見ていませんが、相当長く置けるという機械式を1基置いて、2基目が別の駐車場に配線はしていますからつける予定だということ。これはこれで、ああいう田舎ですから別にシャッターも何もない自主的良心に任すのか、水ヶ鼻の管理委託している業者に任すのかよく知りませんが、本土側はそうはいかないと思います。やはり一貫してそういうことを、岡山市、都会並みにやるべきだと、都会から田舎へ来てくれるお客がどこへ置いたらいいのかわからない、置いてもいいのかどうかかわからない、料金はどこへ払うのかわからないとかというような時代状況ではないという捉え方をしています。そういう意味では、やはり繰り越しなんかを、堂々と置いて、堂々と遠慮なく利用して帰っていただくと。その精神がちょっと足らなくて、観光客の誘致じゃ何じゃ、観光に力を入れるというまちづくり部の戦略と合わない駐車場対策しかやってきていないように思います。水ヶ鼻は1つ評価していますが、もっと需要、供給からふつり合いな、本土側についてやるべきだと思いますが、なぜこういう何千万円ものお金を遊ばせておくのか理解できないですけど、いかがでしょうか。改めて聞いておきます。

○平田まち整備課長 観光客の誘致のためにしっかりと駐車場整備をしたらというお話ですが、この2年ほどかなり新しいものの整備ということで、積み立てていた基金も取り崩してかなり使い切っているような状況です。お話の中で出てきた頭島の駐車場なども、2つ整備をするのに用地費、工事請負費等で相当の費用がかかっておりまして、そのほかにも、まだ未着手ですが香登駅の裏側に1カ所整備予定ということで、そういったものの整備関係で、多分この27年度の当初予算の段階でかなり基金のほうを使い切ってしまい、もう残高がないといったような状況です。ですので、これから新しいものの整備というのはそうした財源の確保というのが非常に大きな課題となってこようかと思えますし、そのあたりニーズというか状況も踏まえながら今後の課題ということで検討をしていく必要があるのかなというふうには思います。

頭島のものについては、ちょっとお話がございましたが、券売機を駐車場のほうに設置しまして、これで精算をしていただくというような形にしています。区画数、台数が多ければシャッター一式のものなどが非常に確実な管理ができるという意味合いではいいのかもしれませんが、これも設置費が非常に高くつくといったようなことで、頭島の場合、台数も少ないことからできるだけそうした経費を抑えようというふうに考えた中で券売機の設置ということになったものです。

○川崎副委員長 前から議論になっていますが、日生中小路の、たしかあれは相続人放棄で国有地かなんかだと、元森下カメラ店の跡というかお風呂屋さんの跡というか、中小路の一番条件的には誰もが駐車したい場所です。今、国だから遠慮なく皆さん自由に置いています。そういう土地をどうするのか。それから、病院跡地もやっと道路ができて、跡をどうするのかもわからない。それと同時に、旧日生ショッピングの跡がいよいよ建物を潰して更地になったということ

で、やはりこういうところも市場調査をして投資効率が出るなら私は買っておくべきものではないのかな。そういう意味では、この香登よりよっぽど即有効利用できる土地の取得のほうが、企業誘致とかなんとかという、駐車場の金がないのなら企業誘致で買っていただきたいと言いたくなるほど。日生地域では一等場所が3カ所ですよ、今言った国有地、病院跡地、日生ショッピングの跡地、合わせて1ヘクタールぐらいはあるじゃないですか。やはり、そういうところの戦略会議か何かというのはやってないわけですか。駐車場対策でやるべきなのか、まちづくり地域活性化ということでやったらいいのかよくわかりませんが、もう少し本気でやっていただきたいと。幸いに家主が壊して更地で売買する予定で更地にしたんじゃないかなと、パオーネの跡なんか。だから、旧日生の中心地に3カ所も空白地域があるというのは見過ごしてはいけないところじゃないかなと思うわけです。いかがでしょうか。

○梶藤まち営業課長 今のお話があった日生町内の有力地ということであったわけですが、そういう土地については、いろいろな企業とかが市に問い合わせがあったりしたら紹介等をして、ぜひとも有力な企業に来ていただきたいと考えています。

○川崎副委員長 民間に委託などと私は言ったつもりはないです。やはり、今、日生の花火を含めていろんな催しをしたときに、小学校、中学校の運動場を開放せざるを得ない状況をいつまでも続けるということは、まちづくりの観点から言えばちょっと欠けています。やはり、日常的に定期駐車場と臨時駐車場をミックスしたような形での、投資効率が悪いのであれば立体駐車場にすることも考えてみる。自走式か回転式かよくわかりませんが。やはりそういうことも含めて、やはり備前から出ていっているというのは、1つは日当たりの問題と駐車場を安く確保してのマイホームが建てられないというのが赤穂市や瀬戸内市、和気へ出ていく大きな理由ではないかな。それが全てではないです、就職先との距離の問題がありますから。しかし、そういうことを考えると、来年になるか再来年になるかわからないような企業誘致のために何億円の金を使いながら、本当にまちの活性化、地方創生化という国も音頭をとっているときに、そういう中心地に非常に利用価値の高い土地について行政として何らかの手が打てないというのは、買い手があつたら民間に紹介しますというような発想では、全くまちづくりの機能はしていないと言わざるを得ないですけど。備前も吉永もあるんでしょうけど、私も地元の日生の人間としては、やはり観光客では年間通じたら備前焼よりも多い観光客に日常的に来ていただいているような気もするし。よろしくお願ひしたいですけど、いかがですか。

○田原委員長 副委員長、決算審査なので、その点を含めてわきまえて質疑をお願いしたいと思います。要するに、今繰越残高の件での質疑なので。

○川崎副委員長 繰越残高があるので、それを有効に活用してほしいという決算に対しての意見なので、そのあたり、市としての答弁でお願いしたいと思います。

○平田まち整備課長 御意見は頂戴しておきたいと思いますが、先ほど説明させていただきましたように、基金ももうほとんど使い果たしたような状況で、財源の確保というのが非常に難しい問題になってこようかと思ひます。

それと、本当にニーズがあるかどうかといったような点も、しっかりと現状を把握する必要があると思います。いいますのも、定期の駐車場などは利用率が若干年々減ってきているといったような状況にもございますので、ひとところと比べればある程度充足をしているような状況にあるのかなという思いも私らとすればありましたもので、そのあたりも現状をしっかりとまず把握をした上で今後の対応をどうするのか考えていきたいと思います。

○川崎副委員長 カキオコも若干ブームが落ちよるけど、やはりカキオコの時期になると駐車場がない、公共の空間にどんどん置いて交通渋滞とかいろんな迷惑をかけるということもなくしていくのも長期的なまちづくりの最も基本的な戦略の一つだろうと、そういう意味では定期駐車場が満杯だからもうええがなではないですよ。臨時駐車場が足りないではないですか、現実的に。365日足りないわけではないけど、観光客が集中する時期、特に今、日生でいえばカキの時期は明らかに催しや何や含めて足らなくなりつつあります。もっとそんなのを本気で、やはり動向をつかんでやるべきではないですか。そんなことだから備前市というのは住んでもよくないな、来ても仕方がないな、よそへ行こうかという意識の大きな要因だと私は思っています。思いませんか、イエスかノーかで答えてください、それぐらい。

○高橋まちづくり部長 駐車場は、先ほど担当が言ったような形で、確かに時期的には一般駐車場が不足するという実態は我々も認識していますし、把握はしていますが、3カ所の土地を一般駐車場として確保していくということについては、先ほども言ったような民営でやっている駐車場もございます。それから、やはりこの利用率といいますか、使用状況、本当に時期的な一時的なものであれば、それを年間通して維持していくということが妥当なことか、その辺もあわせて検討していく必要があるかと思えます。答えになっていないかも知れませんが、そういうことで御理解賜りたいと思います。

○掛谷委員 香登駅の南の駐車場の整備のことです。夏時分にはJRとの交渉がまとまって工事ができるということは前にお聞きしたかと思えます。繰り越しになっています。もうちょっと知りたいのは、工事の請負と借地と工事をする整備、結局最終的には何台ぐらいを実際にアスファルトにするのか、砂利みたいにするのか、土にするのかを含めてそれがまだ明確になっていない、JRの許可がない。ケーブルが走っていてそれがどうのこうのという話がありました。繰り越ししていますので、ちょっと教えてください。

○平田まち整備課長 香登駅の駐車場については、御指摘のとおりJRとの協議をずっと続けてきているわけですが、非常に時間がかかっています。現状進んでいないということで、まことに申しわけないですが、なかなかまだめどが立っていません。一応、こちらの考え方とすれば、JRの用地を借地をしてそこに整備をするというようなことで、まず昨年度は現況測量ということでJRの用地を把握するための現況測量をして、それをもとにJRと協議を続けてきているわけですが、そういう中で非常に重要な埋設ケーブルがあつたりといったようなこともあり、そのあたりの協議もJRとの協議は時間がかかってしまったというような状況です。

計画については、これから詰めていくようになりますが、恐らく区画がとれる台数というのは

十数台になるのではないかなというふうに考えています。できれば、アスファルトで舗装するような形で区画をとって十数台の駐車と、基本的には有料ということで考えていますが、料金の設定などはこれからです。

実際、繰越予算ということですので、何とか今年度中には工事の完了までしたいというふうには考えていますので、今後しっかりとJRとの協議を詰めて早目に計画のほうを固めていきたいというふうに思います。

○掛谷委員 JRとの協議は恐らくずっと続いていてよくわからないですが、結局のところは何がそんなに時間がかかるのか不思議なんです。難しいことだということ聞いていますが、向こうが一向にこちらから連絡しても応じないのか、いやこちらの熱心さが足りないのか、どういうことが要因になっているのか、ケーブルが出てきたので、そこをどねえかせないかということとは当然しなきゃいけない。だけど、何がこんなに長くかかるのか、本当に不思議なんですよ。めどは本当に今年度中というて、これは3年越しぐらいですよ、話としては。物すごい時間がかかっています。結局のところは何が問題なのか、端的にお伺いします。

○平田まち整備課長 正直、私もこの4月からで、前年は担当していませんでしたから、その辺の経緯の詳しいことはよくわかりません。ただ、聞いた話と今年度の対応の中で総合して考えますと、対JRとのお話というのが借地のことですか、それからケーブルのこと、工事の方法だとかいろんな話が出てくる中で、JRも窓口は1つですけども、話の内容によってさまざまな部署が関連をしてくるということで、1つのことを協議してもなかなか答えが返ってこない、非常に時間がかかってしまうといったようなことがございます。それに対して、うちのほうもやはり協議に行くとなれば、それなりに図面と資料をつくって持っていくと、こちらはこちらで若干の時間がかかってしまうということで、その繰り返しで非常に時間がかかってきてしまったということだというふうに思います。ただ、先ほども申し上げましたが、今年度の繰越しの予算でするので、何が何でも今年度中には工事を完了するように頑張っていきたいというふうに思っていますので、御理解いただきたいと思います。

○掛谷委員 しっかりやってください、本当に。地元の住民は、もう何かできないのかというような声も聞こえますし、心配する、不信ではないですけど、もう何をやっているのかわからないという声をよく聞きますので、しっかり早くやっていただきたい。めどがいたらお知らせを、また委員会をお願いします。

○高橋まちづくり部長 この件については、石原議員からの一般質問もあったと思います。私、そのときにもう今にもできるような答弁をした記憶がございます。そうした中で、JRの内部的なもの、うちの内部的なこともあると思います。ちょっと整理しまして、私のほうも直接お願いに行き、今年度繰越予算が必ず一日も早く実行できるような形で直接行ってお願いもしてみたいと思います。そういうことでよろしくお願ひしたいと思います。

○尾川委員 駐車場ということで、また決算と違うかもわかりませんが、要望みたいな形なんですけど。実は、西片上駅の、私も前に駐車場をあそこへ設置したらええんじゃないかという提案

をさせてもらったことがある。というのは、なかなかバリアフリーに、赤穂線も西大寺までは来ていると思います、エレベーターが。こっちには今の乗降客の数から見てもなかなか難しいので、そのあたり駐車場が乗りおりしやすいということで車で西片上の国道2号のところまで来るというケースがあり、そんなことを部長からぜひ、エレベーターを各赤穂線の東のほうにつけていただけるようなことになりゃいいんですけど、できる限り現場に合った形で、そういったことも工夫をしてもらえたらと思います。

○平田まち整備課長 西片上駅の駅前、国道2号の沿線部分への駐車というのは、以前からもお話がございまして、国土交通省とも協議をしたような経緯があったように記憶しています。ただ、なかなかお話が難しかったのかなというような記憶が残っています。三、四年前のことだったと思うので、詳しいことは私も覚えていませんが、改めてちょっとその辺は確認をして再度そうしたことを検討する余地があるのかなのか、その辺は考えてみたいと思います。国道2号につけるのが難しければ下からエレベーターで上がってくるというのも一つの方法だと思いますし、そうしたことも含めて少しでも使いやすくなるような方法は検討してみたいと思います。

○田原委員長 ほかにございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでしたら、質疑を終結してもよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより議案第113号を採決いたします。

本案は認定することに御異議ございせんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第113号は認定されました。

以上で、議案第113号の審査を終了します。

***** 議案第115号の審査 *****

次、議案第115号平成26年度備前市企業用地造成事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

473ページをお願いします。

○尾川委員 485ページ、確認で、公有財産購入費の3億円、かなりありますけど、この広さというのはトータルで何ヘクタールというか何平米というか、ちょっと教えてもらいたい。

○梶藤まち営業課長 公有財産購入の面積ですが、2万9,321.27平米です。

○尾川委員 何筆というより何カ所になりますか、これは。何カ所でトータル。1カ所で1個だけということですか。

○梶藤まち営業課長 筆数が46筆、地権者が29名です。

○田原委員長 ほかにございせんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

質疑を打ち切ってよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終了します。

これより議案第115号を採決いたします。

本案は認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第115号は認定されました。

以上で、議案第115号の審査を終了します。

休憩します。

午前10時46分 休憩

午前11時00分 再開

○田原委員長 それでは、休憩前に引き続いて会議を再開します。

***** 議案第116号の審査 *****

次、議案第116号平成26年度備前市水道事業会計決算の認定についてを議題といたします。

別冊の決算書をごらんください。

いかがでしょうか。

○山本（恒）委員 この工事の分で3億1,800万円というやつの8億1,000万円という、あそこら周りの工事予算はついつつとったけど、銭は余り残り過ぎみたいなのはどういう感じですか。

○藤森上下水道課長 水道事業会計決算書のほうには不用額は出てないので、監査委員から出されている備前市公営企業会計決算審査意見書の4ページに不用額が出ています。予算額13億2,800万円幾らに対して決算が8億1,200万円幾ら、不用額が3億1,800万円幾らと出ています。このことについてお答えします。

主な大きなものは、三石第一加圧ポンプ場を新しく建てて更新するという計画にしていたのですが、見直してとりあえず悪いところだけと、補強ということで2億5,000万円予算をとっていたわけですが、7,000万円に落として繰り越した残りが大きなものです。あと、入札に対しても、入札で大体85%ぐらいになるので、15%ぐらいは残っています。

○山本（恒）委員 石綿管のところなんかいろいろまだ少しずつ残っているようなところもあるようなので、そこらと普通の、今までに埋設している管とかの破損の率といえば、あそこもさらじゃけど、うちの石綿管もというような、めげる率ですか、そこら周りはどんなですか。

○藤森上下水道課長 石綿管はどうしても衝撃に弱いので、大きなものが通るところはよく破損します。そのために、平成14年ぐらいでしたか、計画的に石綿管の部分は更新してきています。ただ、トラックの通行量が多いとか、交通どめできないとか、物すごく深いとか、いろいろな要因で難しいところだけが今残ってきています。それも、更新はしていかなければいけないと

考えています。

○山本（恒）委員 ほんなら、やっていくつもりはあるわけですか。

○藤森上下水道課長 地元の協力を得ながらやっていきたいと思っています。

○山本（恒）委員 なるべく早くできるように努力してやってください。

○田原委員長 要望しておきますということですね。

ほかにございませんか。

○尾川委員 決算と違うかもわかりませんが、一番心配するのが、人が減って要するに水の使用量、有収水量の減少というのが、24、25と25、26と比較したときに、25から26の減少が非常に大きいわけは、それをまず1点ちょっと。どういう分析を、長年の中で。25年度から26年度が大幅な減少をしている気がしますが、その辺はどのように見られていますか。

○藤森上下水道課長 やはり、最近になって水を使う節水型のものが普及され出して人々が使う水の量が減ってきているのと、特に最近は人口減によるのも大きな要因だと思います。

○尾川委員 将来の予測をしとったデータはありますか。

○藤森上下水道課長 あります。

○尾川委員 やはり、人口との比率で出してくると、そんな感じ。

○藤森上下水道課長 10年後、20年後の人口予測に基づいてしています。

○尾川委員 何が言いたいかというと、要するにこの使用量が減ってきたら水道料金が上がるということをちょっと心配しよるんです。下手なばらまきをしても水道料金がどんどんどんどん上がって行って、下水も含めて、かなり、今データをもろうたりしてみても、今までは備前市というのは水道代というのは安くておいしい水が飲めるということが一つの特徴であったわけです。それが、今度は、下水にしても公会計になって、後、所管事務調査でしますけど、その辺の兼ね合いというのは何か方策というのを、考えられとんじゃねえのかなと、ちょっとその辺を。

要するに、こっちはどんどん量が減ってコストが高くなってきて上げにやいけんというて、そりゃもう当たり前だ、持ち出しが何ぼでもふえてくるといったんじゃ、そうするとやはりこっちは金出しようる、こっちはもっと負担がふえてきようるということになったときに、もう少し全体的に考えていかないとという感じがあるわけですよ。その辺はどんなイメージを持っている、ちょっと決算と違うというかもしれんけど。大事なことなので。

○藤森上下水道課長 人口が減ることに対して料金も減るので、特に今考えているとか、やろうとしているのは、機器、設備を更新するときに今までどおりでなくて小さなもの、能力のいいものにかえて行って、維持管理費を安く抑えるということを考えながら更新していくということを検討しています。

○尾川委員 また、所管事務調査でやりますので、よろしいです。

○川崎副委員長 人口が減りよんのもなかなか、よっぽど総合的に戦略を練らないと人口の定着及び少子化がストップできないのはもうどうしようもないです。そういう中で、1つ前から言っていることは、上流のキリンビールに対して今大鵬薬品だけではなかなか売り上げが伸びていな

いかどうかよく知りませんが、アサヒビールでもサントリーでも来てもらえれば一番いいでしょうけど、飲料水メーカーなんかに来てもらう戦略を、この企業誘致の造成も必要ですが、やはりこういう企業に来ていただければ坂根なんか結構土地もあるし、いい水もあるということで、一挙に給水原価が下がるわけですから、2万トンのうち2万トンも使わないような50%以下の、民間ではとっくのとうに潰れるような稼働率ですから、それを変えるというのは一つですけど。

もう一つ、岡山理科大の好適環境水をうまく利用して瀬戸内海の魚とのミックスを、付加価値の高い魚を中心に、ウナギ、フグ、ヒラメ、そういうものを一挙にやれば単価が下がって、もうほとんど好適環境水であれば塩素なんか一切入れない、ポンプを押して入れればいいだけみたいな、中身でいける可能性があるんで、岡大とはまだ提携関係はあったのかな、たしか理大とは大分前から提携していると思うので、やはりそういうところともまち営業課等積極的に動いて、少し発想の転換をして経費節減ばかりでは打開策にはならないので、やはり大量に使う企業なり産業を呼び込むと。ちょっと発想の転換をやって、せつかく吉井川の下流にあると、非常にいい場所があると、備前市は。という捉え方ができると思うので、地理的に。これを生かさないといいことはないと思うので、いかがでしょうか。

○藤森上下水道課長 私もそういうふうに、飲料水メーカーなんか来てくれれば一番下水にとっても水道にとってもうれしいことなので、頑張ってもらいたいと思います。

○川崎副委員長 一言もないけど、好適環境水、これは、フグなんかも、自然のはどうも餌は毒のあるものを食って肝臓に毒をためるらしいけど、好適環境水という人工的水の中で育てると成長も早いし、一切毒を持たないらしい。ということで、今もう岡山市内ではそれなりに飲食店で使われているというような状況もあるので、ちょっと本気でそういうところへとって、水産業のまちでもあるので、そういう観点がちょっと抜けているのではないですか、もう少しそういうところとの交流を含めて、橋もできたし飲料水も行っていますから、鹿久居島や頭島にそういう実験的な水槽でも理科大よりは大きい規模で、事業採算ベースがどの規模になれば採算が合うのかとか、そういうようなことも少しこういうまだ利益が出ている段階で、一般会計に貸し付けも結構だけど、本来の水道事業をより発展させるという観点では、そういう飲料水なり水を供給する事業としての役割を發揮してもらいたいというふうに考えています。

いかがですか、少し勉強してみる気はないですか、研究してみる気は。

○藤森上下水道課長 恥ずかしながら好適環境水というのは初めてだったので、いろいろちょっと研究してみたいと思います。

○田原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、質疑を打ち切ってよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を終結します。

これより議案第116号の採決をいたします。

本案は認定することに異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第116号は認定されました。

以上で、議案第116号の審査を終了します。

***** 議案第117号の審査 *****

次に、議案第117号平成26年度備前市下水道事業会計決算の認定についてを議題といたします。

別冊の決算書をごらんください。

○山本（恒）委員 ことはまだ下水の工事というのは全然始まってないようなじゃけど、木谷の周りの年寄りが、来るから早うしてくれと言いはるけど。そりやすぐにすぐはできんのじゃろうけど、そこら周りはどんなですか。

○藤森上下水道課長 田原委員長の一般質問にもありましたが、今発注率が11%ですけども、この9月に割と出して今40%弱になっています。ただ、木谷のほうはもう下水の計画の一番端になるので、以前の委員会でも言わせてもらったように36年を目標にやっています。

○山本（恒）委員 計画は計画でええんじゃけど、もうそんな人は年ととる人じゃから。課長が一番よう知っとられるように、ほんまに若い衆がよう家を建てるほうは合併浄化槽で、昔からおる地域のほうへ下水が来るというて、そらもう計画しとんじゃからしょうがねえけど、できるだけ早うに、そこらをぜひ早急にはできんのじゃろうけど、頑張ってもらわにやいけん。

○藤森上下水道課長 頑張っやりたいと思います。ただ、ちょっと国の補助のつきぐあいによって制限ができるので、補助がついた分は頑張っ整備していこうと思っています。

○尾川委員 水洗化率のことですが、何かちょっと最近忘れてしもうとるようなところがあるんですけど、前は高橋部長が下水道におられたころには、相当つないでもろうて使うとらんのじゃというふうな話もあったんですけど、そのあたりはもう、水洗化率というか要するに未水洗化世帯数というのはどういう状況ですか。引いとるけどつないでないところがあるのか。

○田原委員長 いかがですか、3年以内につなぐという何かがありましたね。

○尾川委員 要するに、地区別にあるかわからんけど、どういう現状になっているのか、つないでないところはつないでないと言うたりするうわきがあるけど、とりあえずそういうわけにいかないし、いろんな事情があるから、その家庭にも。

○藤森上下水道課長 地区別にも一応水洗化率は出していますが、読み上げてよろしいでしょうか。

○尾川委員 ああ、もういい。読み上げてもらわんでもええ。転記できないし、また。

○藤森上下水道課長 全体の水洗化率を下水道に関して言えば91.4%です。

〔「全体では」と呼ぶ者あり〕

全体で言えば91.5です。

○尾川委員 それと、公会計に26年度から変わったんですか。

○藤森上下水道課長 はい。

○尾川委員 それは何か、市としてメリット、市民にとってメリット、会計制度が変わるだけで結局コストが高くなりようから、高うせえということにつながってくるのかな、これは。どういうふうに判断しとんですか。それで、課長、地方財源も統合されとって、また一遍次回改めて所管事務調査で教えてもらわにゃいけんと思うたりしょんですけど。

○藤森上下水道課長 公会計に移行して市民に何の得があるかということですが、それは決算書を見てもらってわかるんですけど、例えば平成26年度の下水道決算の10ページと11ページで、11ページの一番右の一番下に3億円の赤字ですと、それから料金にはまたほかのページで減価償却が一切見込まれていませんというのがわかるので、これを見たら料金が上がるのではないかということしか、なかなか市民に得というのは。財政がわかりやすくなった、赤字だというのがわかりやすくなったということではないかと思います。

○川崎副委員長 複式簿記でそういう単純なものではないと思います。損益を見ると3億円ほど赤字と言うけど、減価償却14億円とととんですから差し引き現金は11億円決算で残っていると。ところが、資産のほうで見ると3億2,000万円しか現金がないということになったら、単純に言えば11億円本来残るべき金が3億円しか残っていないということは、8億円は全部減価償却の対象になる新規設備投資に使っているという解釈で、毎年そういう規模でやっているのかな。上水道は十数億円残つとろう、ところが下水のほうは本当に貧弱というか、常にあっちをしてこっちをしてということで、年度計画での工事だからこうなるのかどうかわからんけど、少し、残したらいいのかどうかよくわからないけど、上下水道課なら上水道の金が余っているのですしたらそれをつぎ込んだらもっともっと早くできるのかと思ったりもしますが、どんですか。この3億円だけみて赤字じゃ赤字じゃというようなばかな議論は一般向けにはいいかわからんけど、そんな話はないからな。14億円も減価償却というて計数上の金を計上しているから赤字になっているので、実質現金でいえば11億円の黒字じゃないの、そういうことの説明をしないとわからないよ、一般市民には。減価償却というたら何かわかってないんじゃから。私でも半年かかりましたわ、若いときには。減価償却というのは何でそんな計算で出てくるのかということが。14億7,000万円も架空の経費を計上して、これが公的会計なら一切出てこないものが企業会計になったら出てくるわけじゃ、投資効率を見るのに。ですから、11億7,000万円の利益が出ていますよと、実質現金の収支でいえば。ところが、現金は3億円しか残っていませんというようなことしか書いてないから、8億円以上の金は新規の設備投資に使ったという理解で、よろしいんでしょ。

○藤森上下水道課長 そのとおりです。

○川崎副委員長 ということは、8億円新規で設備投資するだけ利益を上げよんじゃが。赤字などという発想というのは絶対禁句よ、そのためにこういう複式簿記をやりよんじゃから。もうちょっと頭の発想を変えにゃあかんよ。それでも足らんとするんじゃったら上下水道課なら上水道の金を少しでも回して効率よく資金繰りをしたらもっとええ上下水道の事業ができるんじゃない

の。余り人をなめたような発言をしたらあかんよ。

○藤森上下水道課長　そういうつもりで発言したわけではないわけですけども、ただ上水道のもうけたお金を下水へ回すということはずっと下水道課と水道課が上下水道部になったときから議論は担当同士でしてきたり、総務省に聞いたりいろいろ話をしてきましたが、やはりその会計を別の企業会計へというのは無理でした。

○川崎副委員長　回すのが無理なら一般会計に、たしか上水道はさっきの決算でも3億5,000万円ほど貸し出ししとったやない。上水道から下水道のほうに十数億円あるなら幾らか貸し出ししてでも工事を早めるとか修繕を早めるとかそういうことはできるし、身内同士なら金利は無金利でもいいじゃないの。どうですか、その辺は。企業会計だから絶対金利取らなきゃならないような法律があるわけですか。

○藤森上下水道課長　貸し借りのことに関してもいろいろ議論もしてきました。利子についてはそれぞれの判断でオーケーですけども、一応会計規則の内規で企業会計同士の貸し借りは認められていない。一般会計に一旦貸して一般会計からまた下水が借りるということになっているので、企業間同士で借りられるようにというのはできたら、今上下水道が一緒になっているので、利子に関しても安く借りられるので、それはできたらいいなと思います。

○川崎副委員長　一般会計を通せえというなら一般会計へ今どれぐらいの金利で貸しとんのですか。後で結構です。

一般会計も特別会計もいうたら身内なわけじゃ、お互いに利益を出したり支出したりして、結局お互いに頭か尻尾の食い合いしょうるだけじゃな、総枠は変わらんわけじゃから。せっかく上下水道課になつとんだから、そういうふう意識の流れをつくって適材適所に資金投入をして、遊ばせとったら銀行がもうけるだけでしょ、はっきり言うて。0.01%か何かの金利をもらって、銀行は2%も3%もで貸してぼろもうけしょんだから、そういうことを抑える意味でも、やはり投資効率のいい資金の剰余があるなら使ってほしいということと、さっきから言うようにここで3億円赤が出たから、大赤字だから料金を上げにゃあかんような発言だけはやめる意味でも、この複式簿記というのは理解できる人間から見たら即座に損益と貸借の違いがわかるわけだから、やはり慎重な発言をこれからは求めます。それが最大のメリットですから、企業会計をやる。よろしく。

○藤森上下水道課長　以後、気をつけます。

○田原委員長　ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、質疑を打ち切ってよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、質疑を打ち切ります。

これより議案第117号を採決いたします。

本案は認定することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。よって、議案第117号は認定されました。

以上で、議案第117号の審査を終了します。

以上で予定されております議案審査は終わります。

休憩に入ります。

午前 11時31分 休憩

午後 2時28分 再開

○田原委員長 再開いたします。

***** 報告事項 *****

まず、報告事項からお願いします。

○中島人口減対策監 地方創生について御報告させていただきます。

総合戦略の策定については、備前市まち・ひと・しごと創生懇談会をこれまで4回にわたり開催し、皆さんからの貴重な御意見をもとに備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン並びに備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取りまとめを行いました。取りまとめた案については、9月7日から昨日までパブリックコメントを実施しています。御意見としては2件ございました。

お手元の資料は、備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン並びに備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要版です。最終の確定版については、10月2日の議会最終日に報告させていただきたいと考えています。

それでは、資料の説明をさせていただきます。

まず、備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン（案）をごらんください。

本市の人口動態ですが、1970年には5万433人が2010年には3万7,839人と、40年間で1万2,594人減少となっています。65歳以上の方については、1970年に比べ7,601人増加しており、高齢化率は8.6%とから31.5%と大きくなっています。特に、若者の減少が著しくなっています。出生者数については、2010年から2014年の平均出生者数は219人、死亡者の平均は523人となっており、その差は304人となっています。出生者数は、最近では2005年の235人から減少傾向にあります。転入転出者数については、2010年から2014年までの転入から転出を差し引いた平均はマイナス238人となっており、特に20歳代から30歳代の転出が多くなっています。未婚率については、20歳から39歳までは1980年の21.9%から、2010年には55.6%と大きく増加しています。下の表及び人口ピラミッドについては、1970年と2010年との比較をあらわしています。人口ピラミッドでは、ゼロ歳から39歳までの人口減少が著しくなっていることがわかっていきます。

次に、右上の2の分析結果をごらんください。

人口減少の主な原因は、未婚率の増加、子育て世代の転出が顕著、転出先として近隣市町への

転出が顕著、雇用の選択肢が少ないといったことが上げられています。

3の将来人口の推計と目標値の設定ですが、①はこのまま何もしていないでいると2060年には1万4,812人となり、下の左側の人口ピラミッド①の場合の2060年の人口推計のように若い世代の減少が著しくなることが推測されています。また、②で出生率を2020年までに1.70、転入から転出を差し引いた数がゼロ、2050年に2.08とすると、2060年には2万3,118人となり、下の右側のピラミッドのように、②の場合の2060年の人口推計のように若い世代の減少に歯どめがかかるのではないかと推測されています。

こうしたことから、目標値を達成しても2060年には本市の人口は約2万3,000人と推計されていますが、さらに多種多様な企業誘致、定住、住宅施策や結婚者数を増加させる取り組み、子育て支援策を充実させることで2万6,000人を目指すとしています。

次に、備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）についてですが、今回の作成の総合戦略の取り組み機関を国の創生総合戦略と整合させて2015年度から2019年度としています。本市の総合戦略の内容は、2の5つの基本目標上と具体的な施策のとおりとしてまとめています。

①では、基本目標として、子育てしやすい環境を整備し、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるとしており、2020年までには安心して子供を産み育てることができると感じている市民の割合を50%へ、出生数を252人へ持っていくという目標値を掲げています。具体的な施策としては、以下の13の事業に取り組むとしています。

②では、基本目標として、周辺市町へ若者が流出している、人の流れを変える、人口流出に歯どめをかけているとしており、2020年までには転入者数マイナス転出者数がゼロよりも多くなるという目標値を掲げています。具体的な施策としては、以下の12の事業に取り組むとしています。

③では、基本目標として、人を呼び込む魅力あるまちづくりの推進としており、2020年には市の制度等を利用して市外から移住した世帯数を5年間で50世帯、観光客数を年間100万人にするという目標値を掲げています。具体的な施策は、以下の13の事業に取り組むこととしています。

④では、基本目標として教育のまち備前を備前スタイルとしたまちづくりの推進としており、2020年には小・中学校の充実を、これは市民意識調査による満足度を2.5にするという目標値を掲げています。具体的な施策は、以下の5つの事業に取り組むとしています。

⑤では、基本目標として、時代に合った地域をつくり、誰もが安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携するとしており、2020年には備前市に住み続けたいと回答した市民の割合を60%にするという目標値を掲げています。具体的な施策は、以下の10の事業に取り組むとしています。

これらの施策の取り組みについては、取り組みの難しいもの、成果がなかなか出ないものなど出てくる可能性があります。今後PDCAサイクルにより検証を行って必要な見直しと改善を

図って事業を進めていくこととしています。

以上で備前市まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン並びに備前市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要についての説明を終わらせていただきます。

○平田まち整備課長 日生の諸島のトイレの建設についてです。

お手元に図面をお配りしているしますので、ごらんになっていただきたいと思います。

このトイレについては、ことし2月定例会の際に工事予算が不足をしているということで補正予算をお願いして、その際に場所等についてもいろいろと御説明させていただいたわけですが、いろいろと御意見を頂戴しました。その後、そうした御意見を踏まえまして、こちらも場所については当初の計画を変更する余地もあるのではないかとということで検討した結果、今図面にお示しをしているとおり候補地を考えているところです。

具体的には、本土側の梅灘に予定をしていたものを、どうせつくるのであれば本土と頭島の中間点ぐらいがいいのではないかとということでしたので、鹿居久島の真ん中あたりということで現在2カ所、図面にまずAカ所としていますが、これは本線と、それからまほろばへ行く道のちょうど渡り道のところです。こちらは、底地は個人さんの土地です。それから、もう一カ所はBカ所ということで、もう少し南側、現寺湾沿いのこの本線の西に隣接をした、これは市有地です。この2カ所のどちらかということで考えているわけですが、基本的にはできるだけ市有地というふうには思っていますが、若干土地が狭いと。比べましてAカ所のほうは非常に面積はゆったりとしており、形状もいいということで、駐車場も乗用車が数台と大型バスの転回も可能なぐらいの広さがありますので、可能であればこちらでどうかというふうに考えているわけですが、現在地権者の方と交渉中です。用地買収で大きなお金をかけるというようなことは、こちらとしては考えていませんので、お話がまとまらないようであればやはりBカ所の市有地のほうへということになると思います。

現在、発注に向けて準備を進めているところで、何とか10月中には入札をしたいというふうに考えており、ということですので、この候補地の件についても近日中に話を詰めて最終的な決定をしたいと考えているところです。

○梶藤まち営業課長 備前市子育て世帯支援プレミアム付商品券の販売状況について報告させていただきます。

8月30日から9月5日において備前市本庁、日生、吉永両総合支所、三石出張所、三国出張所で販売をいたしたところ、対象世帯が2,218世帯のうち1,431世帯の購入がありました。率にして64.5%です。残りの世帯につきましては、はがきにてまだ購入していないという旨をお伝えして現在購入を促しているところです。

○坂本まち創生課長 御心配をいただきましたバスの車庫と事務所が片上埠頭のほうに決まり、その件について文書にて報告をさせていただいているところですが、10月1日から公共交通課となるということで、きょうあすでできる限り運行に支障を来さないように準備をしているところです。

約半年間かけて何とか継続運行の見通しが立ちました。御理解と御協力ありがとうございました。

○田原委員長 ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、ただいま報告のあった事項についての質疑をお受けします。

○掛谷委員 中島対策監の分析等はしっかりやられて非常に中身はよくわかります。具体的な施策がこれからは大事になってくるのではないかと考えています。結局、あれもしましようこれもしましよう、確かにやらなければいけないわけですが、やはり中心市街地というか、もっと簡単に言えば、川崎委員が言った浦伊部、伊部のああいう広い土地にもう特化して、そこに集中的な資本投下をして、それには地権者の問題もいろいろあります。そういった大手術というか、そういう一点集中しながら、いろんな施策がそこに入ってくるというやり方をしないと、あれもしましようこれもしましようといって分散したら、結局は何が残ったのかなと思えてしょうがないわけですよ。確かに、ハードルは高いと思います。ただ、5年間でしょ、これ、一応は。だから、そういう考え方を持っていくというのは執行部とか我々議員も、今川崎委員が言うたぐらい、私もそう思っています。多分ほかの議員もそういうことは考えていると思いますが、私はそういうふうにもう一点集中、特化、そしてそこに全部を入れていくというか、魅力のある備前市をやっていくにはそういうことが大事だと思いますが、市長初め執行部はどのように本当に考えているのかをお伺いしたいと思います。

○中島人口減対策監 この計画については、国の基本目標という指導がございまして、やはり人口減少をいかにして食いとめるかというのを大命題として掲げています。将来的には、国のほうが2060年ぐらいでしたか、人口を1億人ぐらいに持っていきたいというふうな方向性が示されています。そういった中で、国がアクションプランというものを発表しています。その中で、できるだけソフト的な事業を中心に進めていくということで政策を考えています。もちろん、国の予算の中にも、今年度からですからもう掲げて入っています。そうした中で、5年間というのはあくまでも一つのスパンであり、人口減少に取り組む施策というものはやはり長い年月がかかります。5年間で到底できるとは思いません。確かに、その一つの足がかりとして一日でも早く政策的に進めていくということで、少しでも人口の減少を食いとめようというのが国の考え方です。そういった中で、国のほうがいろいろ政策を示している中で、あれもこれもといったお話がございました。備前市の総合戦略の中には、早期に取り組めるもの、あるいは中・長期に取り組めるものといった分類をしています。今回の概要版にはお示ししていませんが、こういった皆さんのメニューの中で各担当課が早目にこれはできるよといった分の仕分けもしています。そういった中で、少しでも早目に取り組んで、少しでも成果が上がるよう努力していくといったことも明記しています。ですから、その政策の内容によって各担当課、足を上げて取捨選択して進めていくというふうに考えています。

いろいろとこういうふうにメニューが上がっているといいますのは、やはり国が示しているい

ろんなメニューの中で少しでも、財源が少ない中、そういった補助制度に乗れないかというのも
ございます。それと、懇談会の中で皆さんからいただきました貴重な御意見がたくさんありまし
た。その中でできるだけ取り入れて、少しでも頑張っってやっっていこうといった形でこういうふう
な形になっています。

したがいまして、今後の政策については、やはりそういった短期に早目に取り組むもの、中・
長期にわたるものといった趣旨を分別しまして進めていくというふうに思っています。

○掛谷委員 結局、いろんな自治体があるわけですが、備前市の場合は基本的には今は雇用は少
ないですが、昼の人口は多いです。ということは、ここへ働いている人は結構よそから来られ
ているわけです。ここに書いてあるとおり、もう住宅であるとか、食べる場所がない、遊ぶと
ころがない、若者が定住するような、そういう魅力があるようなところがない、働きに来ると
ころはあります。ですから、ないものをどうやっってつくっていくかということに集中していか
ないと、企業誘致を、これ香登のほうはまだしますし、定住化の今の住宅もありましたが、抜本的
に、やはりそういう国のメニューに沿いながら進めるだけで本当にこの備前市が生き残っってい
るかどうか、やはりその辺の発想が、何か国の示された線に沿うだけの話、それだけではこの備
前市の改革というか、魅力ある備前市というのはできないと思います。これ何ぼ言っっても、政府
に沿ったようなそれを出していくんだと言われたらもうそれまでですけど、そういう特色のあ
る、備前市がこれを変えなかつたらこの人口も、それから人も寄っってこない、若者が住ま
ないというのをもっともっと議論を深めていかなくてはこんなことでは私はできないと、ただ
絵に描いた餅に終わっってしまうという危惧をしています。

ということで、しっかりともっと備前らしさを大きな観点で考えてもらいたいと思っ
ます。政策監が一番トップかな、きょうは。私が言っよることわかりますか、答弁願っ
います。

○中島人口減対策監 確かに、言われることはごもっともだと思っます。しかしながら、総合戦
略については、ある程度具体的に政策ができると、期間が第1期が5年間という形で計画を策定
するといっふうになっていますので、その中でまずどういっったことができるかといっ
のを考へて皆さんから御意見をいただいったといっことです。

確かに、委員がおっしゃられるように、なかなかないものをつくるといっのは難しゅうござ
います。そっいった中で、皆さん一生懸命仕事をされていますので、そっいった中で少
しでも人口がふえるような施策といっことに導いっていければ非常によいのではないかと
思っっています。

こっいった事業については成果がすぐ、これをやっったから子供がふえるとか、人が
ふえるとかといっことはなかなか難しいと思っます。特効薬は確かに私はないと思っ
ます。少しでも地道にやっていけたらといっふうには考へています。

○尾川委員 まち・ひと・しごとなんですけど、1点目が、一般質問でも市長から
いい答弁をいただいってから、その点執行部のほうは誤解をされてい
ないと思っますが。何を言っよんかといっくと、残念ながら議員の参加がなかつた
といっ話があり、その点だけは二元代表制でする議会の立場を、皆さん方は理解
してくれていっると思っるので、その辺確認させてもらっうことと、それからこ

の表を見せてもらって、これつくったら何ぼもらえるわけですか。10月末までに出したら何ぼ金もらえるわけですか。

○中島人口減対策監 今、先行型の交付金ということで1,000万円の交付金の申請を行っています。その中でも、住宅の調査費用の財源に充てるという形でしています。そのほかの分については、4月3日以降の補正予算で成立したものに対して先行型とみなされる分であろうという事業を2つほど国へ申請しています。まだ内示等はありませんが、10月の末までに策定すれば1,000万円の交付金があるというふうに理解しています。

それと、議会での発言、非常に言いにくいですけど、市長の発言に対して我々の立場としてはなかなかコメントすることは差し控えさせていただけたらというふうに思っています。

○尾川委員 それで1,000万円の話は、私の理解は、この1,000万円は100%出るわけですか、それともあとの分は半分の補助金というか補助になっていると聞いています。要するに何でもかんでも手を出していきようたら半分は持ち出しになるということで、議決せにやええがなと言われたらこっちも責任が出てくるわけですけど。提案のほうも何でもかんでも提案してもらわないほうがええと思うので、その辺よく精査してもう一遍、調査費用は半分ではないですか。

○中島人口減対策監 半分というわけではございません。1,000万円をどのように割り振りしていくかというふうな形になるので、どの事業にどれくらいつくかという部分は、国のほうで算定されるのではないかなと。我々は全体として総事業費が、ちょっと忘れましたが、一千四、五百万円かな、交付金をいただける額よりもちょっと多目の事業費ですので、その財源内訳については、最終的には11月ぐらいに内示か交付決定があるようにはお聞きしています。

それから、地方創生に係る予算については、国において地方創生のための新型交付金というのが1,080億円、それと今年度から地方交付税の中に全国で2,000億円、5カ年で1兆円といった予算づけがされるということで進めています。それと、あと個別に各省庁が持っている予算が7,763億円あります。これを28年度に概算要求しているというふうに聞いています。この部分で、それぞれ今後やっていく施策の中で担当課の担当する省庁へこういった事業をする上でこういった政策パッケージに乗っていけば補助がもらえるよと、交付金がもらえるよといったメニューがあらうかと思います。詳細については、まだなかなかお示しをいただけていませんが、そのメニューの中で地方に仕事をつくり安心して働けるようにするような事業、地方への新しい人の流れをつくるような事業、若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるような事業、時代に合った地域をつくり安心な暮らしを守るとともに地域と地域を連携すると、こういった事業について市のほうが進めていくということで、国の予算と合致すれば交付金なり補助金なりの対象になるのではないかなというふうに今のところは考えています。

○尾川委員 創生懇談会はいろんな方に集まっていたいて、一気に4回ほど行われ、その意見をぜひ、中島対策監が勝手にまとめるわけにいかないでしょうが、何を言わんとしているのかというのを一度まとめてもらって。生かしているというふうに今話を聞いたわけですが、もっと積

極的に活用する何か報告書というか、やはりせっかくの意見で、議員は一部もらったような記憶があって、ざっと見ましたが、それはやはり一般市民の人にも見てもらって、いろいろ考えてもらうということが必要だと思うので、その辺はどんなお考えなのかお伺いします。

○中島人口減対策監 その件について、ホームページで皆さんからいただいた御意見について全て載せています。市の各担当課にもこういった御意見がありましたよということでメール、掲示板等で御報告させていただいています。

○尾川委員 そのまとめを出しっ放しで見てくれというのも確かにありますが、まとめていくというのは、私もいろんなアンケートをとることがあるわけですが、非常に難しい、時間もかかるし大変ですけど、せっかくあれだけのメンバーが集まるということは、本当に国の動きでできたということで、備前市だけのことでかなりああいうことを集まってやってもらえるということは大変だと思いますが、ぜひ生かしてもらいたいということと、それからこの表も、実際人口も動きが、予想と実数とのその時期時期、大変ですけどそういうのも適宜つくってもらえたら。本当に予想どおりいっているのか、予想より下回っているとか、あるいは人口が上回っているとかという、やはり実際は前後すると思います。だから、その辺も適宜教えてもらい、それからこの表も組み立てが数値化しろということになっていたと思いますが、項目は各自自治体によって違うだろうと、比較はしていないわけですが、大きなところとは比較にならないでしょうけど、総合計画から持ってきて、そのまますぐ、こんなやあやあ言わずにすぐ総合計画から出しているところもあるように聞いています。だから、早く、4月や5月に出しているということもお聞きしていますが、類似団体あるいは近隣の団体との比較も少し分析してもらえたら、一人でなんもかんもせえという大変ですが、非常に大事なことだと思います。やはり、よその手のうちを知ったり、こっちの手を知らせないようにするのがいいのかわかりませんが、その辺の取り組みについてお聞きしたい。

○中島人口減対策監 懇談会の意見については、その都度御意見をいただいた部分について、この総合戦略の中に盛り込んでいます。全て盛り込むというわけにはいきませんが、やはりその中で中心的なもの、皆さんの御意見をいただきながらこの総合戦略の中にできる限り盛り込みをさせていただいています。

それから、実際の今後の人口の推移とか、そういった数値の流れですが、まだ始まったばかりでこれからしっかりとその検証なり、どのくらいの乖離があるかといったものを調べていく必要があると思います。この10月で国勢調査もございます。その結果が出てくれば、当然比較検討していく必要があるかと思いますが、いずれにしても、この計画は絶えず見直しをしていくというふうになっていますので、その時点時点で修正をかけながら見直しをしていきたいと思えます。

あと他市との比較分析ですが、岡山県では笠岡が8月の末ですか公表しているとお聞きしています。そのほかについては、正直申し上げて県内では公表しているところがないということで、なかなか比較検討はできていません。いずれにしても、とりあえず今後の作成ができた後、他市

のいろんな総合戦略を見ながら調べたり比較検討、いいところとか悪いところとか、そういったものの検証は必要と思っています。

○尾川委員 最初に聞かにゃいけないのがございます。ずっと前に、備前市の場合はコンサルとかというのは余り頼ってないわけですか、もう中島対策監の力で、どんなですか。

○中島人口減対策監 総合戦略のこちらの策定については、私と創生懇談会のメンバー、それから庁議のメンバーということで、業者には計画委託はしていません。

○川崎副委員長 きれいな統計で、このとおりにいくかどうか、外れることを願うのみです。一つ深刻だと思うのは、未婚率が1980年、30年前と比べて21.9、5人に1人が結婚しなかったのが2人に1人以上結婚していない。これどう考えても人口がふえようないですよ。一世代前みたいに5人から10人、50%でも5人から10人産めば、今平均1.4か2.0以下ですから5人から10人産むような家庭をつくるなら未婚率は関係ないですけど、現実には結婚していても2人の子供を産んでいない現状というか、非常に深刻だと。これは、全国的にもこういう傾向、それとも備前市の決定的弱点として55%の方が結婚していない現状、どうなっているのでしょうか、現状把握の意味で確認しておきたいと思います。

○中島人口減対策監 未婚率については、男性で25歳から29歳については備前市が74.4%、全国が71.8%、同じく男性で30から34歳までが備前市が52.2%、全国で47.3%、35歳から39歳までが男性の備前市が41%、全国で35.6%、女性については、25歳から29歳が全国とほぼ同じで60.3%、30から34歳までについては備前市の女性が36.2%、全国が34.5%、同じく35歳から39歳まではほぼ全国と同じといった形で若干備前市が全国平均よりも上回っている現状です。

○川崎副委員長 20から29というのは、今経済的不況の中でなかなか経済的安定になる30代に入らないと結婚はできないという現状を数字があらわしているというふうに思います。ですから、私はこの20から39というのは少し統計のとり方が大まか過ぎるというか、特に女性の出産適齢期を考えますと25歳からやはり35歳ぐらい、ここらを重点にどうやるのかと。これは、ぜひ住民票か何か見ればわかるわけでしょうから、具体的調査を地域全てを調べてとは言いませんから、抽出してやっていただきたい。調べてそこの意見、こういうことをしてもらえたら結婚できるんだという。というのが、総合戦略会議に独身の方は出てきていないのではないですか。3分の1ぐらい占めています、創生会議のメンバーの中。そこはどうでしょうか。

○中島人口減対策監 幅広い年代で32名の方をお願いをしています。そのうち、高校生の方が4名、大学生の方が1名、あとの方については大学の先生等もございますので、結婚されているかどうかはそこまでは把握していませんが、独身の方と言われれば非常に少ないというのが現状です。

○川崎副委員長 高校生や大学生は独身と考えてほとんど結婚しているわけがないので、社会常識的には。やはり、創生会議も意見を反映できない層の要望を聞かないと、この統計的に55.6%になってすぐ打開できますという展望があるのなら何も議論する必要はないけど、いろいろ

下の戦略を見ても結婚支援などという言葉で片づく問題ではないですよ。本当に人口をひとつ、定着をふやすという意味では、過半数が結婚していない、25から30歳まではまだ適齢期でない方もおられるでしょうが、ちょっと曖昧な統計ですけど。やはり、特に出産適齢期の女性の意見を聞いて、もしこういう条件があれば結婚して子供を産みたいと、産みたくなるというふうな施策をやらないと、この数字は下がらないだろうと思いますので、やはりそういう地道な調査とか要望を聞いて回るが必要で、統計的なこんな数字をいじることは誰でもできることで、コンピューターに打ち込めばできるわけで、それよりこのデータが出る原因を調査することが私は大事だと思いますし、特に日本全国でも20年間というて今の30代から40代と言うたかな、もう悲劇的な世代と言われていていますよ。就職はないわ、パートだわ、2人に1人は正職になれないとか、あらゆる労働条件、生活環境が悪化した中で、そりゃ結婚したいと思わないのも、夢も希望もないわけですから。だから、そういう意味ではそれを本当に国が本気で、かけ声だけで本気で金をつぎ込んでいませんから。いまだに労働条件の改悪をしているわけですから、言っていることとやっていることが全然違うわけでね。やはり、そういう中で備前市が本気でやるのなら、そういう現場の、現場というより今市に住民票を置いている、生活している人の要望を徹底的に聞いてほしいです。おのずと答えが出てくると思う。そこらはやらないと、こういう統計はいつまでたっても絵に描いた餅だと私一貫して言っていますが、絶対に変わらない。減少傾向はもうどんどん低下するのみということだと思います。

いろいろ言うてもしょうがないので、未婚率だけでも改善できる具体的な施策をぜひ出してくださいということをお願いいたします。

答えを求めても何も無いと思いますから、よろしくをお願いします。

○田原委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

***** 所管事務調査 *****

ないようですので、報告事項は終わって、所管事務調査に入りますが、先進地視察も10月29日からありますし、委員の方から市内の企業、会議所等への対話とか、そういうこともやってはどうかという意見も出ています。そういう中ですので、特に今回こういうテーマでということがあればお受けしたいと思います。

○尾川委員 藤森課長へのお願いです。最近法改正の関係で、下水道、上水道で決算カードみたいなのができているといううわさを聞いています。次回にでも、ぜひ一度御教授願えたらと思います。いろいろと所見をお伺いしたいわけですが、26年度の決算カードができているのかできていないのか、よく知りませんが。要するに、比較しなければよくわからないから、それはやはり市民に知らせてあげないといけないと思っています、こっちは、できる限り。そういうデータでもってやはり近くの団体はこうですと、備前市はこうですと、水道代も下水道代も決して安いことはないのだからです。その点、今度ぜひ機会にお願いしたい。

○田原委員長 要望ですが、いかがですか。

○藤森上下水道課長 決算カードというのはどういうものでしょうか。

○尾川委員 下水道と水道とが出ているでしょう。診断表というんか、何か出ていると聞いています、備前市のも。

○田原委員長 また後で調整してください。

ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

***** 閉会中の継続調査事件について *****

ないようですので、所管事務調査は終わりにして、最後1つ、閉会中の継続調査事件について皆さんにお諮りしたいと思います。

お手元に、現在の閉会中の継続調査事件付託表を2色刷りで修正したものを資料として配付しています。

御案内のように、公共交通についての調査が組織変更で変わります。組織がえに伴って、公共交通については閉会中の調査研究が厚生文教委員会に移るようです。そして、定住対策についての調査研究は当委員会ということになるようです。ついては、閉会中の継続調査事件を所管どおりに引き継ぐため、表にある、18定住対策及び公共交通についての調査研究については調査研究を終了し、新たに定住対策についての調査研究を追加したいと考えます。

なお、本日、追加を承認いただければ、条例施行後、私から継続調査事件の申し出を行い、議会最終日に議決いただくこととなりますので、御承知おき願います。

それでは、この件について質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、閉会中の継続調査事件の付託については、先ほど説明したとおりでよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、閉会中の継続調査事件の付託については、そのようにします。

以上で、閉会中の継続調査事件の付託についてを終わります。

ほかにないようでしたら、これで委員会を閉会しますが、よろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、以上で総務産業委員会を閉会いたします。

どうも長時間、御苦労さまでした。

午後3時14分 閉会